

- 1 派遣期日 平成22年8月4日・5日
2 研修先 学校名 東京都中野区立多田小学校
所在地 東京都中野区

<http://www.tim.hi-ho.ne.jp/zentokkatu/>

3 研修内容

第54回全国特別活動研究協議大会・第2回関東地区特別活動研究協議大会・東京大会
大会主題 望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築く特別活動の創造

(1) 全体会

① 児童・生徒の発表

- 目黒区立田道小学校児童会…「心をひとつに 輝け田道 その笑顔」の児童会スローガンのもと、「雨の日の過ごし方 標語・ポスターコンテスト」の様子や「目黒 SUN 祭り」での給食の残飯を活用したコンポスト配付の取り組みについての紹介。
- 江戸川区立小松川第二中学校生徒会…「もったいない運動」に取り組み、代表委員会によるアルミ缶回収、残菜ゼロ運動、古紙回収やごみの分別などの活動を工夫して行ったことの紹介。
- 都立小金井北高等学校生徒会…生徒会執行部が取り組んだ夏服ポロシャツ着用や屋上開放の問題から見えた校則と自由について討議を重ねた実践の紹介。
いずれも自分たちで学校をよりよくするための取り組みであり、発達段階に応じて、自治的活動が高次になっていくことが分かった。しかし、特活は小中高でやっていることがなかなか一本にならない現実もある。

② 講演 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 杉田 洋先生

「心を育て人間関係を築く特別活動」－新しい評価の考え方を生かして－

- 改訂により評価の観点が統一され、ほぼ同様の内容が小中高に示され、学校種を超えてしっかりとつなぐ指導と評価が求められている。
- 特活の課題は、指導の格差。どの教師にも最低限の指導をしてもらい、学校として確実に成果を上げなければならない。
- 評価の改善に取り組むに当たり、教科の集団活動では育てられないような「共に生きていく」ことができる社会性や集団性などをしっかりと育てることが必要である。
- 特活が重視しなければならない活動は、話し合い活動、望ましい人間関係を築く活動、異年齢集団活動、社会体験活動である。
- 学級を現実の社会で生きていく前の訓練、慣らしの場と捉え、集団の難しさや辛さにも巡り合わせ、どの子も力を発揮し、それらをみんなで乗り越えていけるような力強い集団活動にすべき。
- 時間はかかるが、教員が変わっても継続できる子どもたちの自主的な実践力を育てる必要がある。
- 各学校で評価観点を定める。評価方法の研究を。単なる観察法ではなく、全教職員が共通のチェックリストをもとにした観察法などは一つの例。
- 「話し合い」が変われば「生活が変わる」ということを実感させる。とにかく、実践に結びつける話し合いが大切である。子どもにマネジメント能力を育てる。

③ 特別講演 脳科学者 茂木健一郎 先生

これからのグローバルな世の中では、世界の人々とコミュニケーションを図ることができる能力が必要であり、特別活動で人間力を身につけることが大事である。

④ 鼎談 「心の教育に果たす特別活動の役割」

道徳、特活は教育活動の中核に位置づけられるべきである。学級づくりについてきちんと応えられる特活にしなければならない。学校では何をするにしても、ベースに集団づくりが絶対に欠かせない。

(2) 分科会

学校行事分科会 「所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校をつくる学校行事」
 実践提案 東京都荒川区立第三日暮里小学校 教諭 津田 利枝
 研究主題 「行事の意義を理解させ、主体的に活動させるための事前指導」(音楽会の実践)
 実践の概要及び研究協議

①活動への意欲や期待感を高める工夫

- 区のシルバー大学コーラス部との交流会…感動を与える喜びを得る、行事の意義を考える
- 音楽会コーナーの設置…音楽会を常に意識できるようにする。予定表、スローガン、歌詞、楽譜、係の連絡や掲示、保護者からの励ましの手紙など

②めあてのめたせ方の工夫

- めあての修正…練習の様子などをビデオで見せる。改善点を見つけ、より具体的なめあてにして、修正の必要性に気づかせる。

③音楽会ブックの活用

- 予定表…時間的な見通しをもてるように
- 練習がんばりカード…自主的に練習を進めたり、振り返ったりできるように
- がんばっているね、ありがとう！カード…意欲的に取り組めるように

④児童、学校、家庭、地域をつなぐ

- シルバー大学コーラス部との交流会、学年通信での活動の紹介、保護者からの励ましの声の紹介、など学校、家庭、地域のつながりを意識して取り組む。

⑤研究協議

- 行事の意義を明確にし、全ての職員が共通認識を持って行事に取り組む必要がある。
- 意欲を継続させるための、カードや掲示など工夫していくことが大切である。
- 学校行事においては、教師の指導の上に児童の自主性を育むことが大切である。

各分科会研究協議から

	大会研究課題	明らかになったことや課題
視点 1	望ましい集団活動の在り方を明らかにする	・提案理由を共有の課題にする。 ・発達段階に応じて扱う内容を広げていく。(例 高学年…学級→学校全体へ) ・役割意識のめたせ方(係や役割のネーミング 全員に役割分担があること) ・同じ目標をもって活動すること、クラスの目標づくり ・やられる活動ではなく、自主的な活動のスタートを
視点 2	よりよい学校生活やよりよい人間関係を育成するための具体的な取り組み・展開について、研究を深める	・PDCA サイクルで活動を計画する。 ・他学年、他校種、地域との連携(異学年での人間関係づくりも視点に入れる。) ・振り返りの視点を明らかにし、活動ごとに振り返りの場をもつ。 ・学級目標や目的意識を大切に活動の工夫 ・互いのよさを認め合う活動 ・活動時間、場、内容の確保 ・活動計画の見通し ・丁寧な事前指導を行う
視点 3	特別活動の実践により人間関係がどのように変容したのか、個の変容及び集団の変容から分析し、明らかにする	・目指す児童の姿や育てたい力、振り返りの観点を明確に示す。 ・児童の変容の見取り方(簡潔、無理なく、絞って評価する。) ・様々な実態把握の方法(アンケート、日記、授業の録音) ・活動の足跡を残す。 ・発達段階に応じた質問項目や分析の仕方 ・振り返りの場の設定 ・自己評価と教師によるデータの分析 ・集団の変容についての見取り方(評価)の仕方

4 感想

特別活動で求められていることが講演や実践発表を通して知ることができた。また、子どもたちが集団としての志をもつ時間が話し合い活動であり、しっかりと時間を確保していかなければならないということも改めて分かった。子ども達に指導すべきことと共に、「学校として確実に成果を上げていく」という視点を教職員全員が持ち、特活の集団活動機能を教師側がもっと取り入れる必要があるという課題も明らかになった。そのためには、個人がもつ優れた指導法を広め、職員の共通認識のもと、指導の格差をなくしていくべきであると感じた。